

群馬県文化振興指針(仮称)素案

平成24年10月29日

群馬県生活文化部文化振興課

目 次

- ・群馬県文化振興指針(仮称)策定の基本的な考え方……………P 3
- ・群馬県の文化の特性……………P 5
- ・群馬県の現状……………P 6
- ・本県の「文化度」……………P 7
- ・県民等の文化行政に関する意識調査結果……………P15
- ・群馬県の文化の限りない可能性……………P23
- ・群馬県が目指すべき文化行政の方向性……………P24
- ・指針の推進に当たっての考え方……………P26
- ・基本的な文化振興施策……………P27

群馬県文化振興指針(仮称)策定の基本的な考え方

趣 旨

「文化県群馬」宣言(昭和56年3月群馬県議会決議)から平成23年3月で30年が経過したことから、群馬県の文化的風土を再評価し、文化行政の目指すべき方向を定めるため、群馬県文化基本条例を制定(平成24年4月1日施行)しました。

群馬県文化振興指針(仮称)は、文化行政の目指すべき方向の骨格を示す同条例の各規定を踏まえ、文化の振興に関し、総合的かつ効果的な推進を図る基本的な施策を示すために策定するものです。

計画期間

平成25年度から平成29年度までの5カ年計画

構 成

本県の文化の特性、現状と課題について分析を行い、先人から受け継いできた本県が持つ文化の限りない可能性を探ります。次に、そうした現状を踏まえ、基本理念、基本目標など、本県が目指すべき文化行政の方向を示すとともに、推進していくための実効性の確保や姿勢を示します。

最後に、県民アンケート調査結果等を踏まえ、文化振興施策を総合的かつ効果的に推進していくための基本的な施策を示します。

<6部構成>

- ①指針策定の趣旨など
- ②群馬県の文化の特性、現状と課題
- ③群馬県の文化の限りない可能性
- ④目指すべき文化行政の方向性(基本理念、基本目標)
- ⑤推進に当たっての考え方
- ⑥基本的な文化振興施策

策定の方法

指針は、学識経験者、文化活動を行う者、文化関係団体の代表者等で組織する群馬県文化審議会(群馬県文化振興指針策定部会)において原案を作成し、群馬県議会における審議・議決を経て策定します。

なお、市町村及び文化団体から意見を聞く場を設けるとともに、パブリックコメントの実施により、幅広く県民の意見を聞き、指針に反映します。

策定の留意点

1 県民の視点による指針策定

県政の基本姿勢である「対話と協調」のもと、県民が何を望み、何を必要としているか、よく把握することが最も重要であることから、アンケート調査やパブリックコメントの実施等により県民ニーズを把握し、県民の視点による指針を策定します。

2 長期的なビジョンに立った、真に必要な施策の策定

厳しい社会経済環境を背景に、県民アンケートや市町村、文化団体から要望が多かった施策の重点化を図り、文化振興政策を着実に推進します。

3 県民にわかりやすい指針の策定

県民が文化を身近に感じ、自分自身にとっての文化を考えられるような内容を盛り込みます。また、具体的な取り組みや数値目標を設けるなど、できる限り県民にわかりやすい形での明記に努めます。

4 県民、市町村との関係

県民、市町村を県が後ろから支えることが県の責務であることを明確にし、そうした視点で各文化振興施策を策定します。

5 県総合計画との整合

はばだけ群馬プラン（県総合計画）を補完する文化分野の振興に関する個別計画として策定します。

群馬県の文化の特性

- 古代から東国文化の中心地として脈々と築き上げてきた歴史と、多彩な文化に富んだ地域
- 近代から現代にかけては産業、教育及び芸術の各分野で輝かしい歴史を有している地域
- 私たちの暮らしと文化を支えてきた上毛三山、利根川など豊かな自然
- 地域の絆を強めてきた農村歌舞伎や人形芝居などの伝統文化
- 生活に根付いた県内各地域の食文化
- 国の特別史跡である「上野三碑」、東日本最大の前方後円墳である「天神山古墳」
- 絹産業群を代表する「富岡製糸場」、日本の最先端技術を大きく前進させた「中島飛行機」
- 戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して創設された「群馬交響楽団」
- 県内の歴史上の人物や自然、地域の産業など、群馬の特徴が読み込まれた「上毛かるた」 など

群馬県の現状

本県の高齢化の状況を見ると、直近の平成23年では23.9%となっています。また、24年後の平成47年には34.0%になり、三人に一人が高齢者になることが予想されます。

一方、出生数及び合計特殊出生率の状況を見ると、直近の平成23年では出生率が15,837人、合計特殊出生率が1.41となっています。昭和40年の27,885人、2.21と比較すると△12,048人、△0.8となっており少子化が進んでいることがうかがえます。

人口と高齢化率の推移(群馬県)

単位:千人

	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成23年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2011	2015	2020	2025	2030	2035
総人口(a)	1,606	1,659	1,756	1,849	1,921	1,966	2,004	2,025	2,024	2,001	1,961	1,908	1,845	1,776	1,699
うち65歳以上(b)	110	131	154	184	215	256	313	367	417	479	537	571	575	574	577
高齢化率(c)=(b)/(a)×100	6.8%	7.9%	8.8%	10.0%	11.2%	13.0%	15.6%	18.1%	20.6%	23.9%	27.4%	29.9%	31.2%	32.3%	34.0%

※国勢調査(1965～2011)及び国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」(2015～2035)を使用

出生数と合計特殊出生率の推移(群馬県)

単位:人

	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2009	2010	2011
出生数	27,885	29,429	29,616	25,140	22,917	19,470	19,431	19,445	17,134	17,044	16,310	16,023	15,637
合計特殊出生率	2.21	2.16	1.99	1.81	1.85	1.63	1.56	1.51	1.39	1.40	1.38	1.46	1.41

※厚生労働省「人口動態調査」を使用

市町村合併による地域活動の広域化や農村部での過疎化が進む中、コミュニティが崩壊しつつあり、地縁的なつながりや人と人との絆が希薄になってきています。

県内の伝統文化継承に係る実態調査を平成20年に実施した結果、神楽・獅子舞等の民俗芸能の約4分の1、祭り・行事の約1割近くが「継承の危機」にあることがわかっています。

伝統文化継承状況

民俗芸能				祭り・行事				
総件数	復活	中断中	廃絶	総件数	復活	危機	中断中	廃絶
855	11	197	23	846	5	26	11	37
(構成比)			24.4%	(構成比)				8.7%

本県の「文化度」

1 「文化」の範囲

- 「文化基本条例」が対象としている主な分野は次のとおりです。
 - ①芸術文化：文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊など（メディア芸術を除く）
 - ②生活に係る芸術文化：茶道、華道、書道など
 - ③国民的娯楽：囲碁、将棋など
 - ④メディア芸術：映画、漫画、アニメーションなど
 - ⑤群馬特有の文化：東国文化、群馬交響楽団、上毛かるたなど
 - ⑥伝統文化：民謡・民舞、神楽、歌舞伎、人形芝居、祭り囃子、年中行事、昔話など
 - ⑦文化資産：文化財等、世界遺産等、食文化など

2 「文化度」の考え方

○本県の「文化度」 = 本県の文化についての「現在の姿」
文化活動の状況（「レベル」 × 「拡がり」） + 活動を支える環境

○「現在の姿」を確認する指標

区分	指標の例
1 創造活動	①活動団体（NPO法人）数 ②公立文化会館の主・共催公演数 ③種類別行動者率 * 実践行動
2 鑑賞活動	①県民芸術祭入場者数 ②美術館・博物館観覧者数 ③種類別行動者率 * 鑑賞行動
3 活動環境	①施設数（博物館、文化会館） ②地元公共団体の芸術文化経費

3 本県の「文化度」の現状

(1) 創造活動

①文化活動団体数

平成21年において各市町村文化協会に加盟している団体数は3,490団体であり、83千人が活動していますが、平成11年と比較すると団体数は△494団体、会員数△31千人となっており、団体数及び所属人数ともに減少傾向にあります。

◆文化活動団体数 (単位：団体、千人)

*各市町村文化協会加入団体数・所属人数

	H11	H16	H21
団体数	3,984	3,932	3,490
所属人数	114	103	83

(資料) 群馬県文化協会連合会

②NPO法人数(文化芸術関係)

平成21年において文化芸術活動を活動分野の一つに含むNPO法人の割合は40.9%(263団体)であり、全国の33.1%を上回っている。また、平成21年に比べ58団体増えています。さらに、文化芸術活動を主たる活動分野とするNPO法人の割合は9.2%(59団体)となっています。

◆関連NPO法人認証数

*「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」を、活動分野の1つに含む法人
(単位：法人(法人総数に対する割合：%))

		H18	H21
群馬県	—	205 (41.7%)	263 (40.9%)
全国計	—	9,590 (32.0%)	12,909 (33.1%)

*同分野を、「主たる活動分野」とする法人

群馬県	—	36 (7.3%)	59 (9.2%)

(資料) 群馬県、内閣府

③公立文化会館の主・共催公演数

平成16年において公立文化会館が主催または共催の公演をした実施件数は、511件で全国で第13位となっています。全国平均の439件を上回っています。

また、時系列で見ると、平成10年に比べ36件増えています。

④種類別行動者率（実践行動）

文化芸術分野において実践をしている者の割合は、平成17年では6.3%（全国第9位）となっている。また、全国平均と比べ+0.2%となっており、実践者が全国的に多いことがうかがえます。

◆公立文化会館の主・共催によるホールでの舞台芸術・芸術公演の件数

（単位：件）

	H10	H13	H16
群馬県 [全国順位]	475 [第17位]	504 [第18位]	511 [第13位]
全国計	19,210	24,138	20,650
全国平均	409	514	439

（資料） 文部科学省「社会教育調査」

◆趣味・娯楽の種類別行動者率

* 芸術分野の実践関連のもの平均値

（単位：%）

	H7	H12	H17
群馬県 [全国順位]		5.9% [第28位]	6.3% [第9位]
全国計		6.5%	6.1%

（資料） 総務省「社会生活基本調査」

H17：楽器演奏、邦楽、J-POP・声楽、邦舞・おどり、洋舞・社交ダンス、絵画・彫刻制作、陶芸・工芸、写真撮影、俳句・小説等創作

H12：楽器演奏、邦楽

* 調査は無作為抽出の為、各回比較は困難

(2) 鑑賞活動

① 県民芸術祭入場者数

県民芸術祭は、平成9年では84事業、325千人の入場者でしたが、平成20年では14事業が増え98事業となっているものの、入場者数は192千人と△133人減少していることがうかがえます。

②-1 公立文化会館入場者数

公立文化会館で主催または共催する公演の入場者数は、平成16年では303千人（全国第14位）であり、全国平均の243千人を60千人上回っています。

②-2 美術館・博物館観覧者数

県立5館（美術館・博物館）の観覧者数（年間のべ人数）は、平成20年では、342千人となっています。また、県民会館（ベイシア文化ホール）の利用者数（年間のべ人数）は、314千人となっています。

◆ 県民芸術祭 入場者数

（単位：千人、件）

	H9	H14	H20
入場者数	325	306	192
事業数	84	76	98

（資料） 群馬県

◆ 公立文化会館での主・共催によるホールでの舞台芸術・芸術公演の入場者数

（単位：千人）

	H10	H13	H16
群馬県 [全国順位]	328 [第10位]	311 [第16位]	303 [第14位]
全国計	11,181	12,283	11,435
全国平均	238	261	243

（資料） 文部科学省「社会教育調査」

◆ 美術館・博物館 観覧者数

* 県立5館の合計

（単位：千人）

	H10	H16	H20
群馬県	352	440	342

（資料） 群馬県

◆ 県民会館（ベイシア文化ホール）利用者数

（単位：千人、%）

	H10	H15	H20
利用者数	362	341	314
稼働率	60.4%	62.6%	62.4%

（資料） 群馬県

③種類別行動者率（鑑賞行動）

文化芸術を鑑賞している者の割合は、平成17年では16.2%（全国第21位）となっている。また、全国平均と比べ△2.1%となっており、文化芸術の鑑賞者が全国と比べ少ないことが分かります。

また、実践行動と比較すると、本県は鑑賞をする者よりも実践する者が多いことが分かります。

◆趣味・娯楽の種類別行動者率

*芸術分野の鑑賞関連のものの平均値

（単位：％）

	H7	H12	H17
群馬県 [全国順位]		17.8% [第20位]	16.2% [第21位]
全国計		19.2%	18.3%

（資料） 総務省「社会生活基本調査」

H17、H12とも、それぞれ次のものの「鑑賞」

美術、演芸・演劇・舞踊、映画、

音楽会（クラシック）、同（ポップス、歌謡曲）

*ただしいずれも、テレビ・CD・DVD・ビデオなどによるものを除く

*調査は無作為抽出の為、各回比較は困難

(3) 活動環境

①-1 施設数（博物館）

博物館数は、平成19年では、21館（全国第20位）となっています。全国平均と比べ△4館となっています。また、人口100万人当たりの博物館数は、平成19年で、10.4館（全国第19位）となっています。全国の9.0館と比べ1.4館上回っています。

②-2 施設数（文化会館）

文化会館数は、平成19年では、43館（全国第16位）となっています。全国平均と比べ+3館上回っています。また、人口100万人当たりの文化会館数は、平成19年で、21.4館（全国第16位）となっています。全国の14.8館と比べ6.6館と大幅に上回っています。

◆博物館数（動・植物園、水族館を除く）（単位：館）

	H13	H16	H19
群馬県 [全国順位]	16 [第25位]	18 [第24位]	21 [第20位]
全国計	1,020	1,105	1,154
全国平均	22	24	25

◆人口100万人当たり博物館数（単位：館）

	H13	H16	H19
群馬県 [全国順位]	7.9 [第27位]	8.9 [第26位]	10.4 [第19位]
全国計	8.0	8.6	9.0

（資料） 文部科学省「社会教育調査」

◆文化会館数（単位：館）

	H13	H16	H19
群馬県 [全国順位]	41 [第16位]	42 [第17位]	43 [第16位]
全国計	1,832	1,885	1,893
全国平均	39	40	40

◆人口100万人当たり文化会館数（単位：館）

	H13	H16	H19
群馬県 [全国順位]	20.2 [第17位]	20.8 [第18位]	21.4 [第16位]
全国計	14.4	14.8	14.8

（資料） 文部科学省「社会教育調査」

③地元公共団体の芸術文化経費

芸術文化経費（予算）の決算額（都道府県＋域内市町村文の合計）について見ると、平成9年では7,373百万円、平成19年では4,445百万円となっており、△2,928百万円の減少となっています。平成19年の全国平均は5,195百万円であり、全国平均と比較しても△750百万円下回っています。

一方、都道府県のみ決算額を見ると、平成9年では2,499百万円、平成19年では1,437百万円となっており、△1,062百万円の減少となっているものの、平成19年の全国平均1,250百万円と比べ187百万円上回っています。

◆芸術文化経費の決算額（単位：百万円）

*都道府県＋域内市町村分の合計額

	H9	H14	H19
群馬県 [全国順位]	7,373 [第14位]	6,394 [第14位]	4,445 [第17位]
全国計	317,427	304,361	244,176
全国平均	6,754	6,476	5,195

*都道府県分のみ

	H9	H14	H19
群馬県 [全国順位]	2,499 [第7位]	2,628 [第7位]	1,437 [第13位]
全国計	79,991	72,902	58,762
全国平均	1,702	1,551	1,250

（資料）文化庁「地方における文化行政の状況」

(参考 活用した調査統計の概要)

①文部科学省「社会教育調査」

- 1 調査内容 各教育委員会や社会教育施設等に係る基本的事項及び事業実施状況等
・博物館調査(種別・設置者別施設数、事業実施状況、施設利用状況等)
・文化会館調査(設置者別施設数、事業実施状況、施設利用状況等)
その他、公民館、図書館、青少年教育施設、体育施設等各調査
- 2 調査時期 3年に1回【最新: 速報:H20年度調査(19年度状況)、確報:H18同(17同)】

②総務省統計局「社会生活基本調査」

- 1 調査内容 国民の社会生活の実態(全国から10才以上の世帯員を抽出(H18:約20万人))
・特定調査日の生活時間(行動状況)、平均時刻(睡眠・食事等の開始・終了時刻)
・1年間の生活行動(特定日までの過去1年間の各種活動の実施の有無) 、等
これらを基に、行動者数、行動者率、平均時間等をデータ化
- 2 調査時期 5年に1回【最新: H18年調査(17年状況)】

③文化庁「地方における文化行政の状況」

- 1 調査内容 各都道府県・市町村における文化行政施策の状況
・文化行政推進体制(文化行政担当部署、条例制定・指針策定の状況)
・文化関係経費(芸術文化経費、文化財保護経費)
- 2 調査時期 毎年度【最新: H20年度調査(20年度状況及び19年度決算額)】

※文化度の調査については、平成21年度に実施したものです。

県民等の文化行政に関する意識調査結果

<調査の目的>

群馬県文化振興指針(仮称)の策定にあたって、本県の文化行政に対する県民等の意識を調査しました。

<調査対象>

1 アンケート調査

- (1) 個人
- ・県内在住の満20歳以上の男女(県民) 2,000標本 → 513標本(回収率25.7%)
 - ・県内大学生 400標本 → 209標本(回収率52.3%)
 - ・県内高校生 401標本 → 401標本(回収率100%)
- (2) 企業 1,500標本 → 381標本(回収率25.4%)
- ・群馬県内に本社を置く企業(パチンコ業界を除く全業種)直近(平成23年3月末まで)の売上高10億円以上
- (3) 文化団体 400標本 → 186標本(回収率46.5%)
- ・県民芸術祭参加団体、市町村文化協会、県の後援事業実施団体、過去に県が助成した団体、文化芸術・まちづくりNPO法人
- (4) 文化施設 143施設 → 83標本(回収率58.0%)
- ・文化ホール61施設及び美術館・博物館等82館(県立を含む)
- 2 聞き取り調査 21カ所 → 県有施設 942標本、県有施設以外 1,086標本
- ・県有施設：県立美術館・博物館5館、県有施設5施設
 - ・県有施設以外：商業施設3施設、観光施設3施設、観光地3ヶ所、中心市街地2ヶ所

<調査期間>

- 1 アンケート調査 平成24年7月～8月
- 2 聞き取り調査 平成24年7月～8月

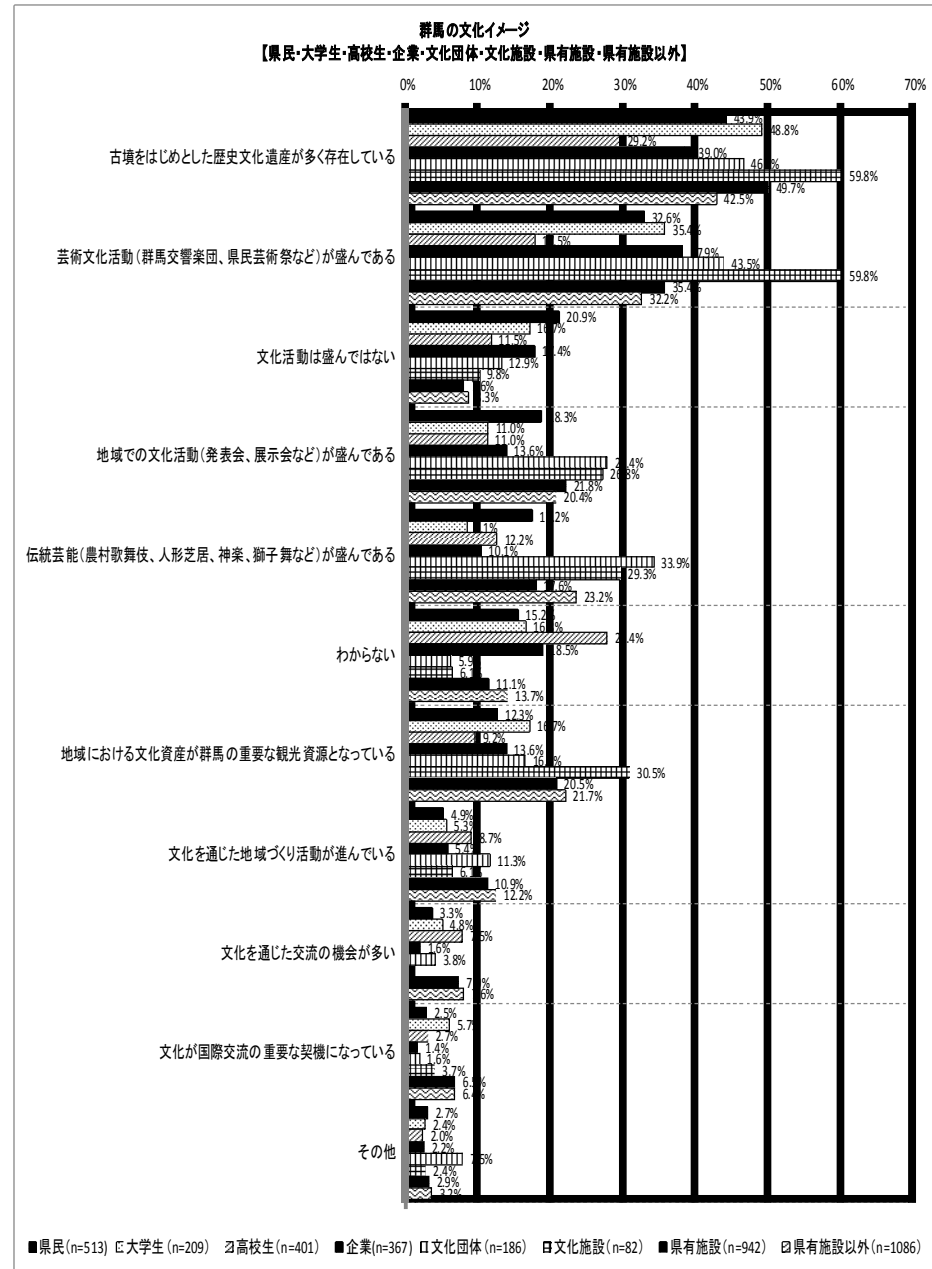
アンケート概要

1 群馬の文化イメージ

全区分において「古墳をはじめとした歴史文化遺産が多く存在している(県民43.9%)」が最も高い割合となっており、次いで高校生を除き「芸術文化活動(群馬交響楽団、県民芸術祭など)が盛んである(県民32.6%)」となっています。

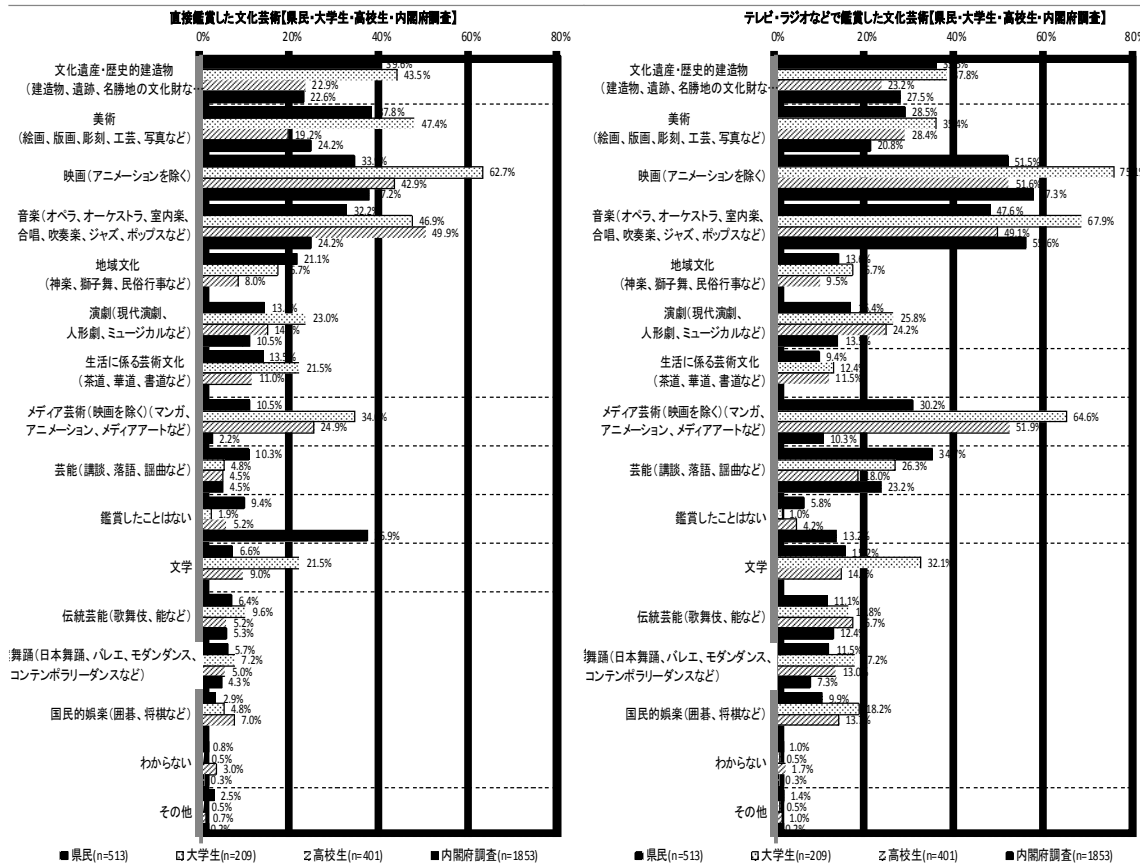
一方、「地域の文化資産が群馬の重要な観光資源となっている(県民12.3%)」や「文化を通じた地域づくり活動が進んでいる(県民4.9%)」と回答した割合は低く、地域の文化資産が観光・地域振興に結びついていないことがうかがえます。

※グラフ中の「n」は、設問に対する有効回答数を示しています。以下のページも同じです。



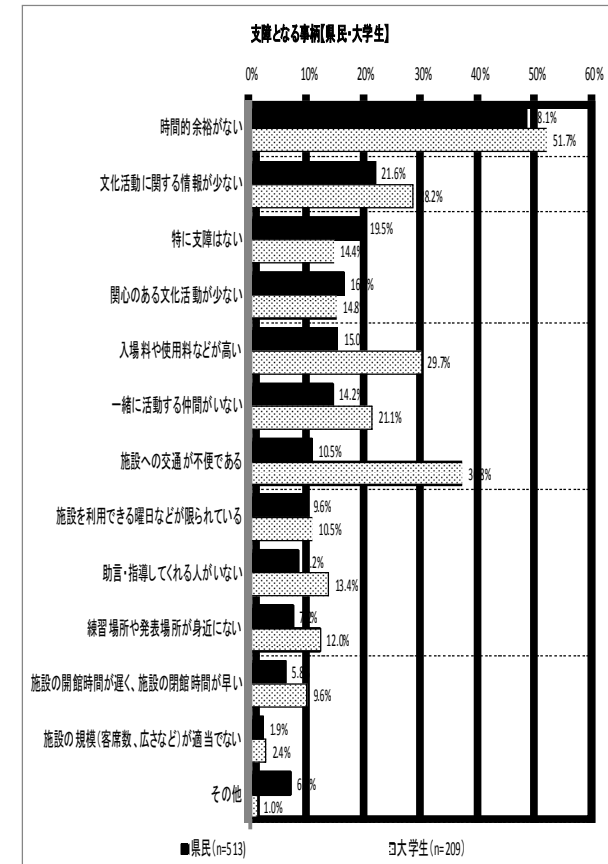
2 この1年間に鑑賞した文化芸術

直接鑑賞した文化芸術は、県民では「文化遺産・歴史的建造物」（39.6%）、大学生では「映画」（62.7%）となっています。一方、テレビ・ラジオなどで鑑賞した文化芸術は、全ての区分において「映画」が最も多くなっています。



3 文化芸術活動を行う上での支障

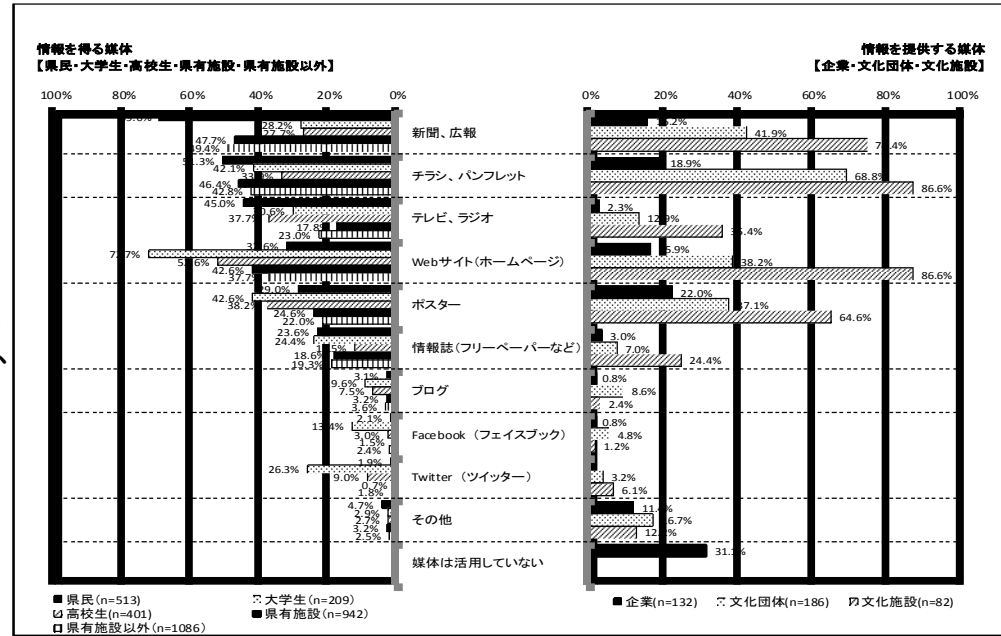
「時間的余裕がない」が県民(48.1%)、大学生(51.7%)ともにそれぞれ一番高くなっていますが、「施設への交通が不便である」では、県民(10.5%)と大学生(36.8%)では、26.3ポイントもの差があります。



4 文化芸術活動に関する情報媒体

情報を得る媒体として、県民、県有施設、県有施設以外では「新聞、広報」(69.6%)(47.7%)(49.4%)、大学生、高校生では「Webサイト」(72.7%)(52.6%)がそれぞれ最も高くなっています。

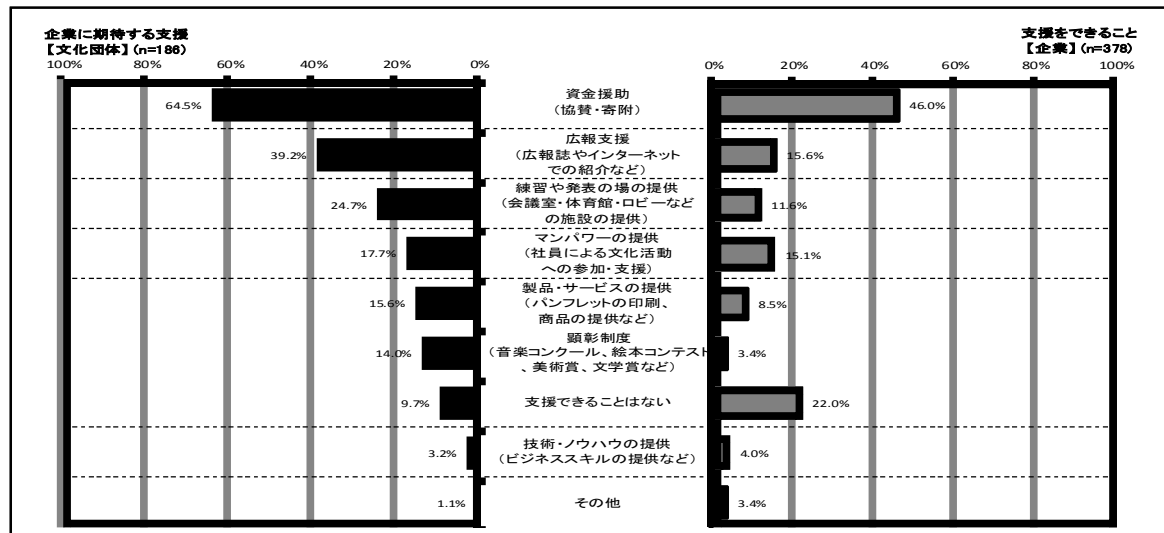
これに対し、情報を提供する媒体は、企業では「媒体は活用していない」(31.1%)、文化団体では「チラシ、パンフレット」(68.8%)、文化施設では「チラシ、パンフレット」「Webサイト」(86.6%)となっており、情報の提供・取得する媒体において相違があることがうかがえます。



5 文化団体が企業に期待する支援と企業ができる支援

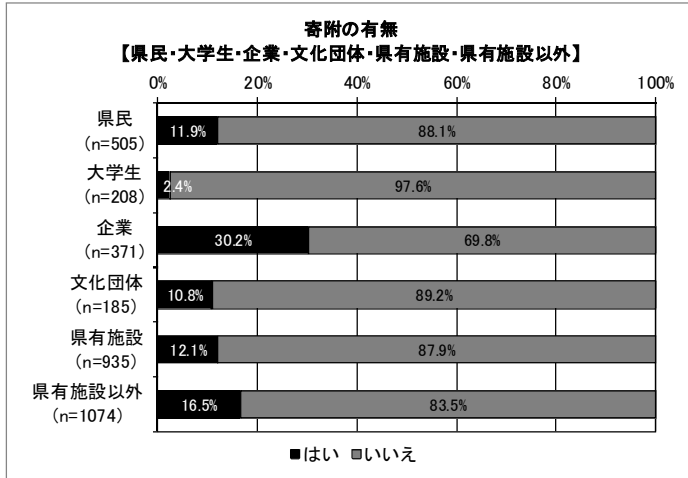
文化団体が企業に期待する支援は、「資金援助」(64.5%)が最も高く、次いで「広報支援」(39.2%)となっています。

これに対し、企業が支援をできることでは「資金援助」(46.0%)が最も高く、次いで「支援できることはない」(22.0%)「広報支援」(15.6%)となっており、文化団体の要望と企業が支援をできることはある程度合致していることがうかがえます。



6 この1年間の文化芸術活動に関わる寄附

企業については30.2%が寄附をしたと回答しており、県民では約1割の人が寄附をしています。



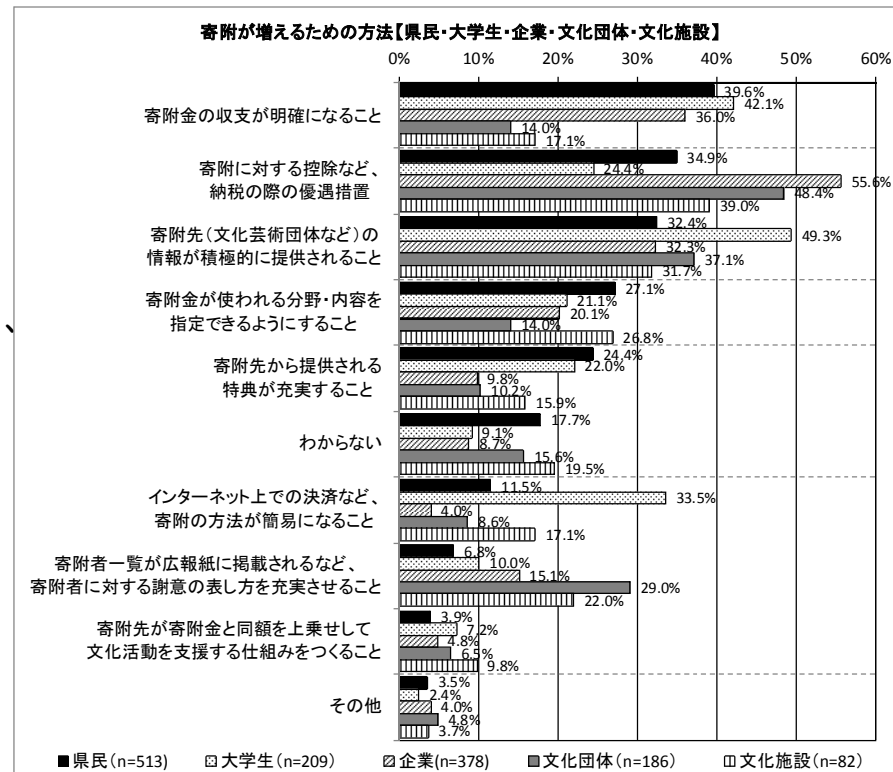
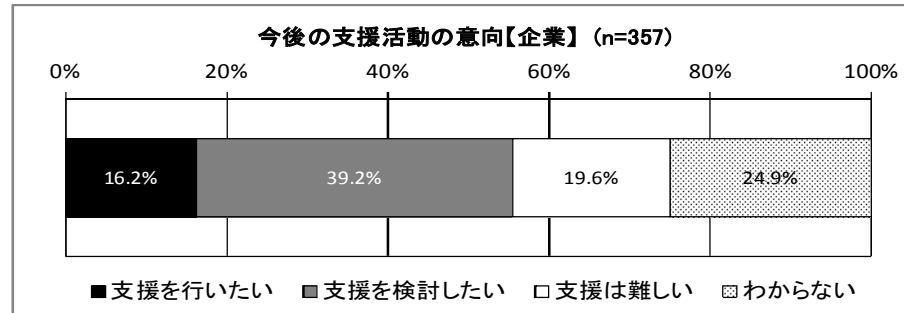
8 文化芸術活動に関わる寄附を行う人や企業を増やすための方法

県民では「寄付金の収支が明確になること」(39.6%)、大学生では「寄附先の情報が積極的に提供されること」(49.3%)となっています。

他方、企業、文化団体、文化施設では「寄附に対する控除など納税の際の優遇措置」(55.6%)(48.4%)(39.0%)が最も高くなっています。

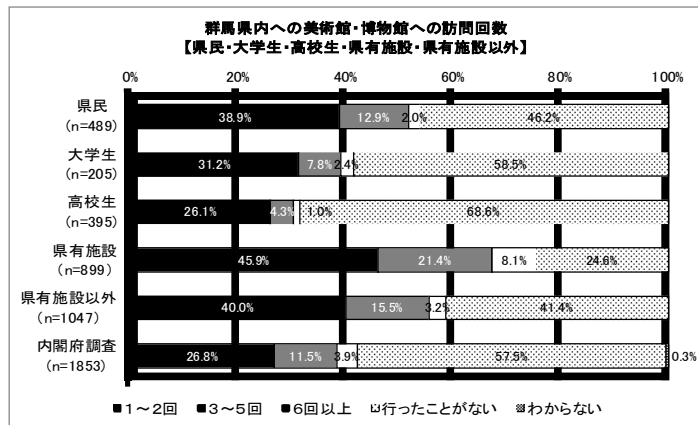
7 県民の文化活動に対する今後の支援

「支援を行いたい」と「支援を検討したい」を合わせると5割を超えており、県民の文化活動に対する支援を前向きに行いたいと回答しています。



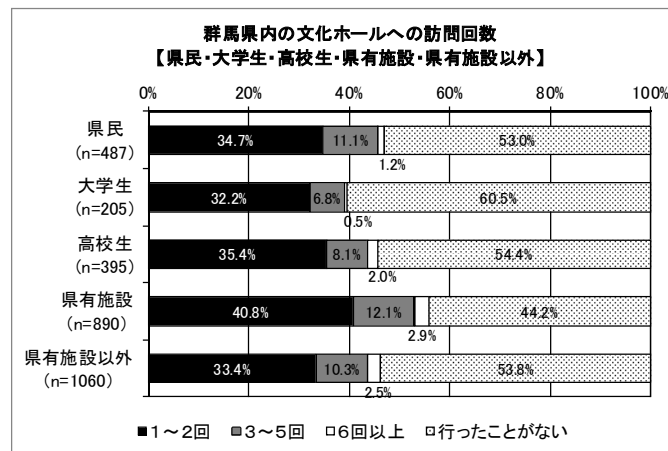
9 この1年の美術館・博物館の利用回数

県民(53.8%)、県有施設(75.4%)、県有施設以外(58.7%)とも、半数以上の方がこの1年間に美術館・博物館を1回以上利用したことがあると回答しています。



10 この1年間の文化芸術の鑑賞などでの文化ホールへの利用回数

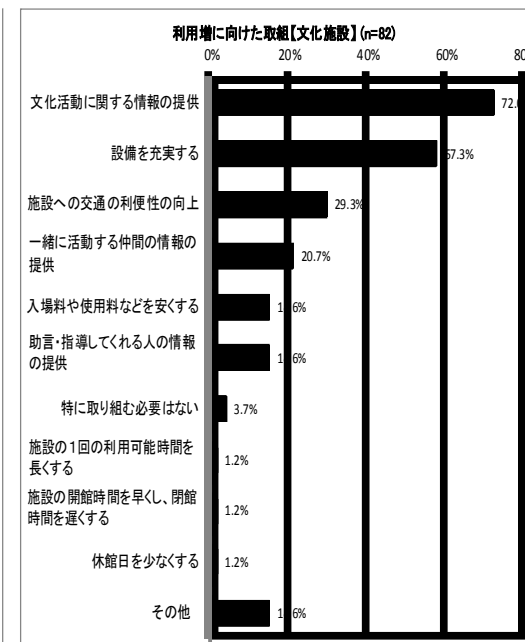
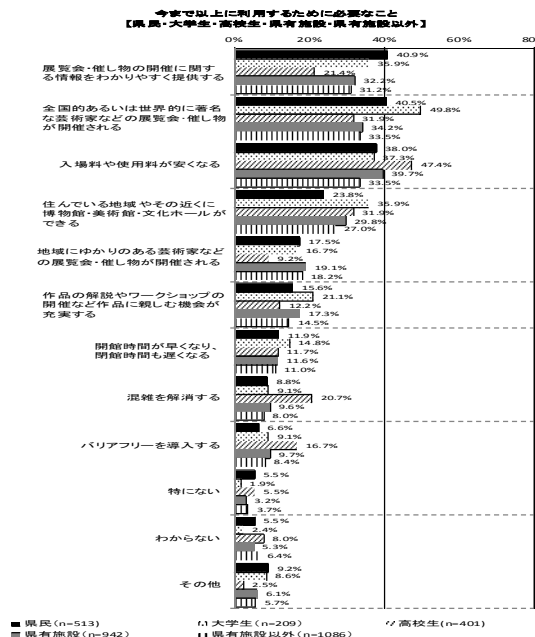
県民(47%)、県有施設(55.8%)、県有施設以外(46.2%)では、ほぼ半数近くの方がこの1年間に文化ホールを1回以上利用したことがあると回答しています。



11 今まで以上に、県内の美術館・博物館・文化ホールに行くために必要なこと

県民では「展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供する」(40.9%)、大学生では「全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物が開催される」(49.8%)、高校生、県有施設、県有施設以外では「入場料や使用料が安くなる」(47.4%) (39.7%) (33.5%)がそれぞれ最も高くなっています。

これに対し、文化施設の利用増に向けた取組では「文化活動に関する情報の提供」(72.0%)が最も高く、次いで「設備を充実する」(57.3%)となっています。



12 文化振興に関する施策の満足度と重要度

県民では「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。

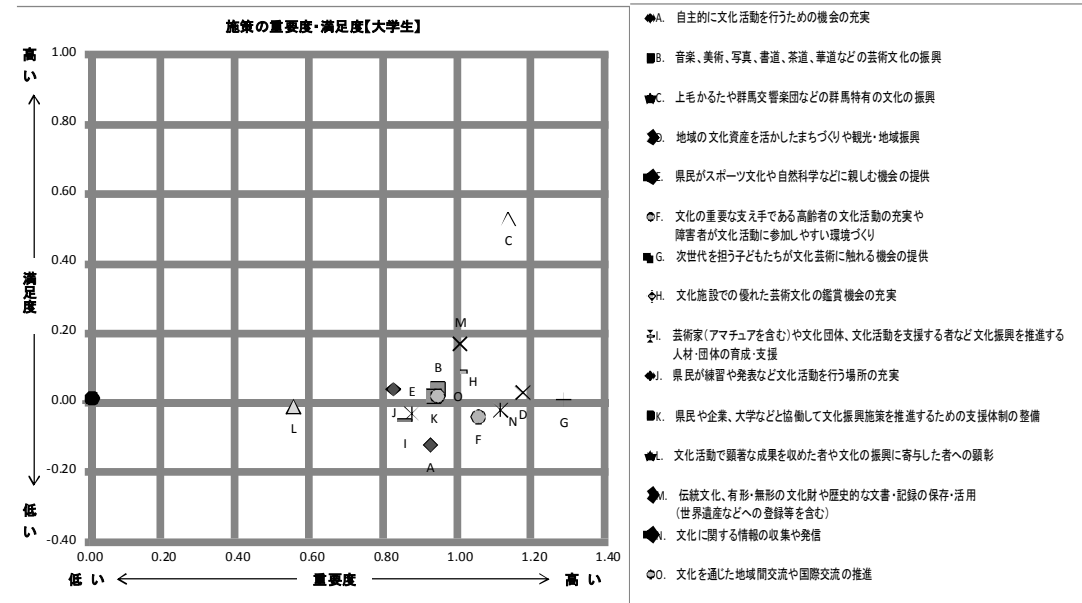
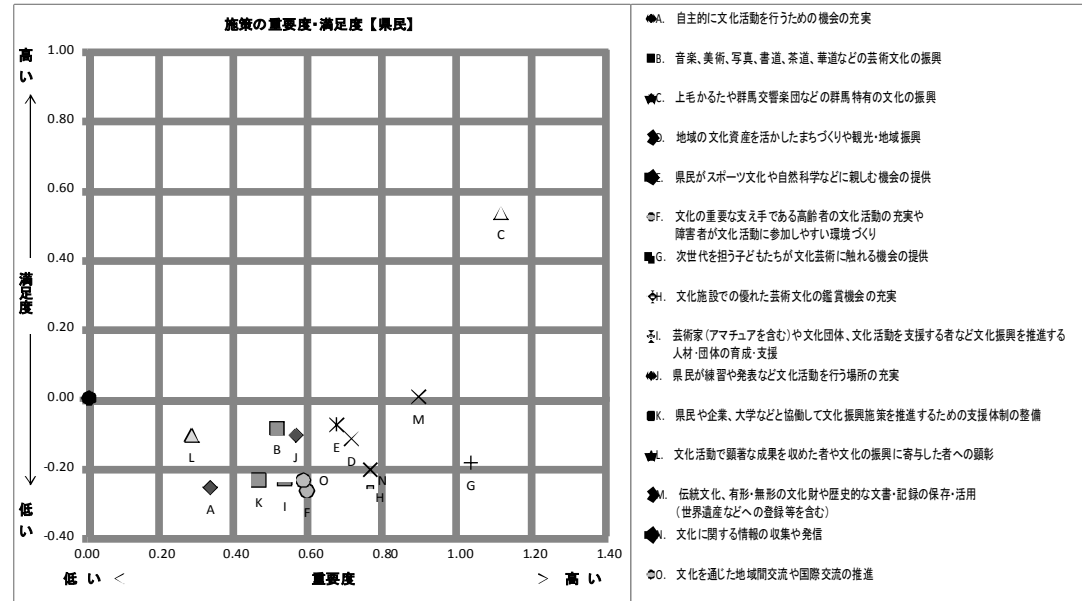
その他の項目については、重要度はすべて高くなっているが、満足度はすべて低くなる結果となりました。

中でも「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」は重要度は高いが、満足度は低い結果となっています。

大学生でも「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。

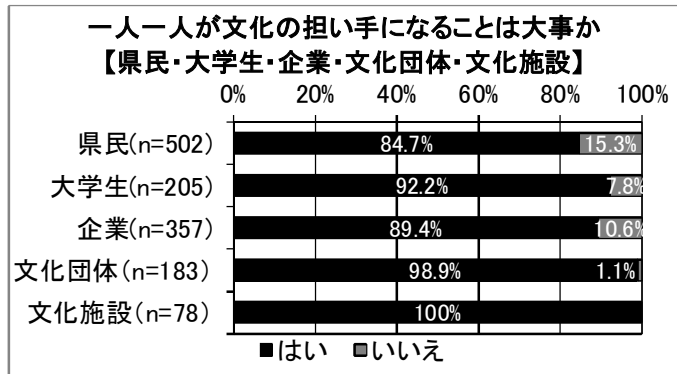
次に「伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用（世界遺産などへの登録等を含む）」となっています。

重要度では「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」が最も高く、満足度では「自主的に文化活動を行うための機会の充実」が最も低くなりました。



13 文化の担い手について

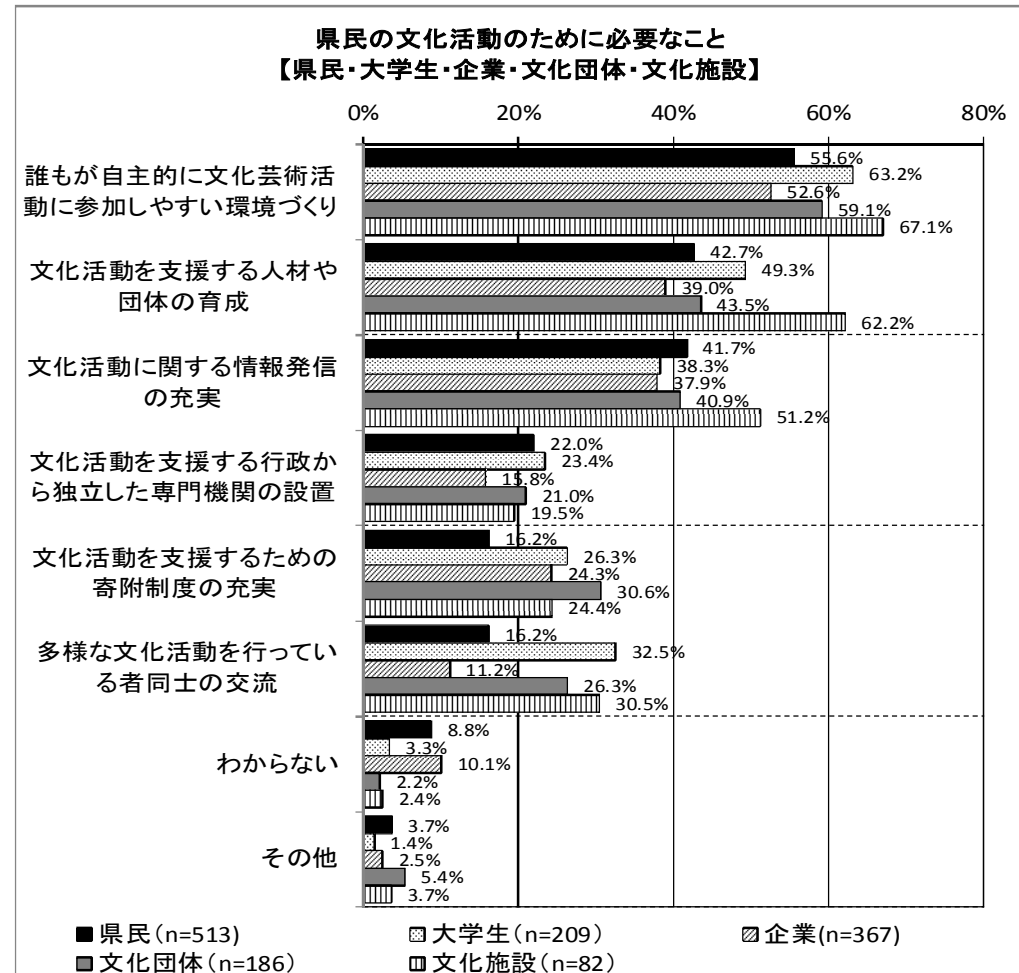
一人一人が文化の担い手になることは大事だと思うかについては、全区分で「はい」を選択した割合が80%を超えており、一人一人が文化の担い手になることは大事だと考えている人が多いことがうかがえます。



14 文化活動の自主性を尊重しつつ、活動が継続して行われていくために必要なこと

すべての区分において「誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境づくり」が最も高くなっており、次いで「文化活動を支援する人材や団体の育成」となっています。

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設では県民の文化活動のために必要なことは同様の考えであることがうかがえます。



群馬県の文化の限りない可能性

文化の広がり

- ・文化を広く捉えることで県民に身近な食文化や地域に埋もれている文化資産に焦点を当て、価値を再認識していくことにより、地域づくり、観光振興、イメージアップ、絆づくりにつなげていきます。

群馬県が目指すべき文化行政の方向性

基本理念

心豊かな文化にあふれた活力ある「文化県群馬」の実現を目指し、
先人から受け継いできた「群馬の限りない可能性」を大きくはばたかせる

<基本理念の考え方>

今日、社会環境、経済状況等の変化により人と人、人と地域とのつながりが希薄になってきています。このような環境の中、県民による主体的で多様な文化活動を尊重することを基本として、文化の振興、文化を通じた人づくり、文化資産の保存及び活用などを図っていくことは、郷土への誇りと愛着を深め、心豊かな活力ある地域社会の形成につながるものです。本県の文化を取り巻く環境が大きく変化する中、昭和56年3月に県議会で議決された「文化県群馬」宣言の精神を引き継ぎ、群馬県が目指すべき文化行政の方向を示します。

基本目標

1 自主性、創造性及び多様性の尊重

文化を創造し、享受することが人の生まれながらの権利であることを踏まえ、文化活動を行う者又は文化活動を行う団体の自主性、創造性、多様性を十分に尊重します。

2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備

文化活動が県民に喜びや感動、潤いを与えること、文化活動が地域の活性化につながるものであることを踏まえ、県民が等しく、文化を鑑賞し、文化活動に参加し、文化の創造を行うことができるような環境の整備を図ります。

3 県民の文化活動の支援体制の充実

県民の文化活動が継続的に行われるべきものであることを踏まえ、県民の文化活動が活発に行われるような支援体制の充実を図ります。

4 文化の継承及び発展を担う人材の育成

文化活動が子どもたちの豊かな心を育成することや、地域の支え合う力を維持することなどを踏まえ、文化の継承・発展を担う人材の育成を図ります。

5 文化資産の保存及び活用

豊かな自然と、歴史風土に培われてきた地域における文化資産が、県民の貴重な財産として育まれて、将来にわたり引き継がれるべきものであることを踏まえ、文化資産の保存・活用を図ります。

6 情報の発信及び文化交流の促進

文化活動が国内外の人と人、地域と地域の相互理解を深めるために重要な役割を果たすものであることを踏まえ、多様な文化との交流に努めるとともに、文化に関する情報の発信を進めます。

指針の推進に当たっての考え方

1 県民等との協調

文化振興指針の推進に当たっては、県民、市町村、大学、企業等との連携が不可欠であり、文化振興指針を総合的かつ効果的に実施するため、県民目線の文化振興施策の推進に取り組みます。

また、学識経験を有する方や文化活動を行っている方などにより群馬県文化審議会を組織し、県民意見を文化振興施策に反映させます。

2 長期的・広域的な視点での推進

本県の現状と県民ニーズ、時代の潮流を踏まえた長期的な展望に基づき、計画期間（5年間）に実施する文化振興施策の目標・方向を示します。また、地方分権の進展により、県、市町村の役割が変わりつつあることを踏まえ、市町村と協力・連携しながら、広域的な視点で文化振興施策の推進に取り組みます。

3 実効性の確保

- ・文化振興指針で示す文化振興施策を着実に実施していくため、群馬県文化振興基金を設置しました。
- ・各施策を総合的・効果的に行うため、群馬県文化審議会において基金の使い途について評価・検証などを行います。
- ・文化活動への支援プログラムの立案や実施、支援策の評価等を行う専門機関（群馬版アーツカウンシル）の設置に向けた検討を行います。
- ・文化振興基金への寄附の充実を図るため、寄附の活性化に向けた県民からの寄附金と同程度の額を基金に積み立てる「寄附同額県費積立制度」等の導入を検討を行います。

基本的な文化振興施策

基本的な施策の主な方向

◎: 県民アンケート調査結果から重点的に取り組むべき施策

1 自主性、創造性及び多様性の尊重

◎ 県民一人一人が自主的に文化活動に参加できるような環境の整備などに取り組みます。また、多様な文化活動を行っている県民同士が、それぞれの文化活動を尊重し合うよう、多様な文化に対する理解を深めるための施策に取り組みます。

【主な施策】

- ・群馬県文化基本条例の周知

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

1 文化活動の自主性及び多様性の尊重に関する事業

9,222千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		文化づくり環境創造事業	群馬県文化基本条例の制定を受け、条例制定の周知事業を実施するとともに、文化振興指針を策定する。	9,222	

2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備

県民が芸術文化を鑑賞する機会（受動的機会）や県民が自主的に文化活動を行うための機会（能動的機会）の充実などに取り組みます。

（1）芸術文化の振興

文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術文化、茶道、華道、書道その他の生活に係る芸術文化の振興、囲碁・将棋などの国民的娯楽の普及を図る。また、映画などのメディア芸術の振興を図る。

【主な施策】

- ・ 地域における映画上映推進事業の実施
- ・ 文化に関する行事を行う主催者に対し名義後援の承認、賞状の交付

【目標・数値（H27）】

〔地域における映画上映推進事業の実施〕

- ・ 上映件数 20回

（参考）平成24年度当初予算に係る文化振興施策

（1）芸術文化の振興に関する事業

456,473千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	企画部	企画課		フィルムコミッション活動支援事業	ぐんまFC連絡会議」設置等により関係団体との連携を図り、地域のFC活動の後方支援を実施。	663	
2	生活文化部	文化振興課		映像・映画文化振興	地域で活動するNPO法人と協働して活動する団体が実施する映画祭等の運営経費の一部を負担し、地域における映画鑑賞機関の充実等を図る。	535	
3	生活文化部	文化振興課		名義後援・賞状交付	事業を行う主催者に対し、後援者として「群馬県」の名称の使用を承認し、また、賞状を交付することによって、その開催を援助する。	—	
4	生活文化部	文化振興課		教育文化事業団運営	県民芸術祭等を実施し、県民の文化芸術活動の支援や優れた芸術を親賞する機会を設ける。	84,886	
5	生活文化部	文化振興課		県民芸術祭委託	県民の積極的な文化芸術活動への支援と優れた芸術鑑賞の機会を提供し個性豊かで新しい県民文化の育成・創造を目指す文化芸術の祭典。	52,101	
6	生活文化部	文化振興課		群馬交響楽団支援	県民の財産である群馬交響楽団を支援し、各種演奏会などの活動を通して県民に音楽に親しむ機会を提供する。	266,488	
7	生活文化部	文化振興課		はじめての文化体験事業	優れた文化活動を行っている県内のアマチュア団体を、幼稚園・小学校等に派遣し、子どもたちの文化・芸術に親しむ機会を提供する。	1,000	
8	生活文化部	文化振興課		教育・芸術文化団体助成	芸術、文化及び教育の振興を図るため、芸術家、芸術文化団体が実施する事業に対して助成を行う。	30,800	
9	企業局	発電課		群馬交響楽団支援	電気事業収益の一部を用いて地域の文化振興に貢献するため、群馬交響楽団の運営を支援。	20,000	

◎ (2) 群馬県特有の文化の振興

郷土に対する誇りと愛着を深め、地域の絆を強め、豊かな郷土づくりにつながるような、群馬交響楽団や上毛かるたなどの群馬特有の文化の創造、育成、発展に取り組む。

【主な施策】

- ・ 東国文化周知事業の実施
- ・ 群馬交響楽団への支援
- ・ 上毛かるたを活用した事業の実施

【目標・指標（H27）】

〔東国文化周知事業の実施〕

- ・ 副読本「群馬の歴史文化遺産（東国文化）体験学習教材」を活用した校外学習の実施件数 200件
- ・ 周知イベントの参加人数 延べ5,000人

〔群馬交響楽団への支援〕

- ・ 定期演奏会平均入場者数 1,400人
- ・ 幼児対象移動音楽教室開催件数 15回

〔上毛かるたを活用した事業の実施〕

- ・ 副読本「『上毛かるた』で見つける群馬のすがた」の販売部数 10,500部
- ・ ガイドマップ「『上毛かるた』ゆかりの地文化めぐり」の販売部数 10,500部

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(2) 群馬特有の文化の振興に関する事業

7,860,500千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課	○	東国文化周知事業	古代の東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳大国である本県が誇る歴史文化遺産について、調査研究を進め、再認識を促すとともに、観光やイメージアップ等における活用を図る。	7,000	
2	生活文化部	文化振興課		県民芸術祭委託(ぐんま郷土芸能の祭典)	県民の積極的な文化芸術活動への支援と優れた芸術鑑賞の機会を提供し個性豊かで新しい県民文化の育成・創造を目指す文化芸術の祭典。	52,101	【再掲】
3	生活文化部	文化振興課		群馬交響楽団支援	県民の財産である群馬交響楽団を支援し、各種演奏会などの活動を通して県民に音楽に親しむ機会を提供する。	266,488	【再掲】
4	健康福祉部	国保課		群馬県戦没者追悼式	戦没者を追悼し平和を祈念する日である8月15日に戦没者追悼式を実施し、先の大戦においてなくなられた方々を追悼し平和を祈念する。	5,453	
5	産業経済部	商政課		中小企業パワーアップ資金(地域経済活性化要件)	地場産業や伝統的工芸品産業の振興の視点から、地域の振興や地域経済の活性化に資する事業を行う中小企業者を対象に、運転・設備資金を融資するもの。	7,529,458	融資枠50億円

(3) スポーツ文化及び科学の推進

県民がスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができるような機会の充実などに努める。また、県民が自然科学に親しめる機会の提供などに努める。

【主な施策】

- ・ 県立博物館の科学に関する展示などによる鑑賞機会の提供

【目標・数値（H27）】

〔県立博物館の科学に関する展示などによる鑑賞機会の提供〕

- ・ 夏休みスタンプラリー達成者数 1,000人
- ・ 年間入館者数 500,000人

* 上記数値は、県立5館の数値目標

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(3) スポーツ文化及び科学の推進に関する事業

7,478千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	企画部	企画課		科学技術理解の増進	こども科学教室、科学技術セミナーの開催 夏休みイベントカレンダーの配布	689	
2	教育委員会	スポーツ健康課		社会体育大会開催派遣	ぐんま県民マラソン開催 群馬県小学生総合体育大会開催補助 群馬県民体育大会開催 等	6,789	

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		自然史博物館運営	地域の文化資源を活かした企画力の高い展示会 や、学校や県民の学習の支援となる教育普及事 業等を実施する。	285,081	

(4) 高齢者の文化活動の充実や障害者が文化活動に参加しやすい環境づくり

高齢者が文化活動の重要な支え手であることを踏まえ、高齢者が行う文化活動の充実を図るとともに、高齢者が文化活動において活躍できる場の提供などに取り組む。

また、障害者が文化活動に参加しやすく、文化に親しむ機会の充実や障害者の文化活動が活発に行われるような機会の提供などに取り組む。

【主な施策】

- ・ 障害者に対する県立博物館入館料の無料化の実施
- ・ 施設製作品展示事業の委託
- ・ 身体障害者スポーツ・文化助成の実施
- ・ 障害者週間記念事業の実施
- ・ ころのふれあい・バザー展の開催

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(4)－1 高齢者の文化活動の充実に関する事業

11,700千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		伝統文化継承事業	地域の絆により、古くから県内各地で伝えられ、守られてきた地域の伝統文化を継承していくための活動を支援する。	11,700	

(4)－2 障害者の文化活動の充実に関する事業

2,690千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	健康福祉部	障害政策課		施設製作品展示事業委託 (啓発広報推進)	県内知的障害者施設利用者の製作品の展示事業を(社)群馬県知的障害者福祉協会への委託により実施。	700	
2	健康福祉部	障害政策課		身体障害者スポーツ・文化助成 (障害者社会参加推進センター運営委託)	主たる会員が身体障害者の団体によるスポーツ・文化活動への取組を助成するために(社)群馬県身体障害者福祉団体連合会が行う助成事業について経費の一部を補助。	880	
3	健康福祉部	障害政策課		障害者週間記念行事	「障害者週間」(12月3日～9日)を記念し、障害者に対する県民の理解を深めるため、障害者作品展などを実施。	926	
4	健康福祉部	障害政策課		ころのふれあい・バザー展	精神障害者に対する県民の理解を深めるとともに、精神科病院の入院患者の社会復帰に資するため製作品の展示・販売行事を開催。	184	

(5) 文化施設での優れた芸術文化の鑑賞機会の充実

多様化する県民ニーズに対応できるよう、県立の文化施設の設置者等が公演を自主制作し鑑賞の機会を提供するなど文化芸術の創造活動などの拠点となるよう取り組む。また、より効率的に県立の文化施設の維持・管理・運営ができるよう努める。

【主な施策】

- ・ 県立博物館での各種展示の実施
- ・ 県立文化会館での各種芸術事業の実施
- ・ 県民芸術祭の開催（鑑賞機会の充実、自らの活動を発表する機会の提供）
- ・ 県ホームページを活用した文化進行に関する情報提供の実施
- ・ 県立美術館・博物館において地域の文化資源を活かした企画力のある高い展示会や、学校や県民の学習の支援となる教育普及事業等を実施
- ・ 県立美術館・博物館、文化ホールなどの維持修繕の実施

【目標・数値（H27）】

〔県立博物館の科学に関する展示などによる鑑賞機会の提供〕

- ・ 夏休みスタンプラリー達成者数 1,000人
- ・ 年間入館者数 500,000人
- * 上記数値は、県立5館の数値目標

(参考) 平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(5) 文化施設の機能の充実に関する事業

1,101,722千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		近代美術館運営	地域の文化資源を活かした企画力の高い展示会や、学校や県民の学習の支援となる教育普及事業等を実施する。	220,345	
2	生活文化部	文化振興課		館林美術館運営	地域の文化資源を活かした企画力の高い展示会や、学校や県民の学習の支援となる教育普及事業等を実施する。	164,191	
3	生活文化部	文化振興課		歴史博物館運営	地域の文化資源を活かした企画力の高い展示会や、学校や県民の学習の支援となる教育普及事業等を実施する。	89,007	
4	生活文化部	文化振興課		自然史博物館運営	地域の文化資源を活かした企画力の高い展示会や、学校や県民の学習の支援となる教育普及事業等を実施する。	285,081	
5	生活文化部	文化振興課		土屋文明記念文学館運営	地域の文化資源を活かした企画力の高い展示会や、学校や県民の学習の支援となる教育普及事業等を実施する。	74,672	
6	生活文化部	文化振興課		文化施設活用推進	夏休みスタンプラリーや事業評価システム等により、県立美術館・博物館等への利用促進を図る。	4,607	
7	生活文化部	文化振興課		美術館等調査研究費	県立美術館・博物館等の次年度以降の展示準備のために、作品の出品交渉や調査研究を行う。	5,074	
8	生活文化部	文化振興課		県立文化施設管理	指定管理者に委託し、群馬県民会館等の管理運営を行う。	138,745	
9	生活文化部	文化振興課		文化施設維持整備	県民の文化施設利用環境を維持向上させるため県立の美術館・博物館等及び文化ホールの維持修繕を行う。	120,000	

(6) 県民が練習や発表など文化活動を行う場所の充実

県民に身近な文化活動の場を提供するため、各地域における文化施設、学校施設、社会教育施設等を利用しやすくできるように努める。

3 県民の文化活動の支援体制の充実

県民や企業、大学などと協働して文化振興施策を推進するための支援体制の整備する。

(1) 文化活動に係る研究教育機関等の充実

文化に関する調査研究の充実を図るため、研究教育機関の機能の強化に努める。

(2) 文化活動に対する企業の支援の促進

企業が県民の文化活動を尊重し、理解し、支援しようとする気運が醸成されるように努めます。また、企業による県民の文化活動への支援を促進するための環境の整備に努める。

【主な施策】

- ・文化活動を積極的に支援する企業に対する顕彰制度の新設

(3) 推進体制の整備

文化振興施策を総合的に推進するため、県の推進体制を整備することや市町村、民間の団体、企業、研究教育機関などとの連携を図るように努める。また、県民の文化活動が自立的・持続的に行うことを可能とするための環境の整備などに努める。

【主な施策】

- ・群馬県文化審議会の設置・運営
- ・群馬県文化審議会による文化振興行政の評価・検証
- ・群馬県文化振興基金の活用による実効性の確保
- ・県庁内の横断的な組織の活用
- ・文化づくりコーディネーター養成研修会を活用したネットワークづくりの実施
- ・群馬版アーツカウンシルの検討

【目標・指標（H27）】

〔文化づくりコーディネーター養成研修会を活用したネットワークづくりの実施〕

- ・養成人員 40人

(参考) 平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(3) 推進体制の整備等に関する事業

2,618千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課	○	群馬県文化審議会	文化振興に関する重要事項を調査審議し、知事に意見を述べる審議会を運営する。	1,100	
2	生活文化部	文化振興課	○	文化づくりコーディネーター養成事業	実践形式の研修会を開催し、文化資源、情報に関する総合的な力を備え、ヒト・モノ・地域をつなぎ、県と連携して施策の推進にあたる人材の育成を図る。	1,518	

4 文化の継承及び発展を担う人材の育成

県民の文化活動が自主的に行われ、継続し、発展していくために必要な人材の育成などに取り組みます。

◎ (1) 次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供

子どもたちが文化芸術を体験し、文化芸術を創造する機会の提供などに取り組む。

また、学校教育における文化活動の充実を図るため、文化に関する体験学習など文化に関する教育を充実する。また、文化団体などによる学校での文化活動を支援する。

【主な施策】

- ・群馬交響楽団による幼児から高校生までを対象にした音楽教室の実施
- ・小学生や中学生を対象とした伝統文化の鑑賞・体験機会の提供

【目標・数値（H27）】

〔群馬交響楽団による幼児から高校生までを対象にした音楽教室の実施〕

- ・幼児移動音楽教室開催件数 15回

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(1) 次世代を担う子どもたちの育成に関する事業

1,321千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		はじめての文化体験事業	盛れた文化活動を行っている県内のアマチュア団体を、幼稚園・小学校等に派遣し、子どもたちの文化・芸術に親しむ機会を提供する。	1,000	【再掲】
2	健康福祉部	国保保護課		沖縄「群馬の塔」青少年派遣事業	先の大戦において国内最大の地上戦の場となった沖縄へ青少年を派遣し、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ。(財)群馬県遺族の会に対し事業費補助。	321	

2 (2) 芸術文化の振興に関する事業—再掲—

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		群馬交響楽団支援	県民の財産である群馬交響楽団を支援し、各種演奏会などの活動を通して県民に音楽に親しむ機会を提供する。	266,488	【再掲】

(2) 芸術家（アマチュアを含む）や文化団体、文化活動を支援する者の育成・支援

○文化活動を行う者の育成等

新たな文化を創造する芽を育てるための環境の整備に取り組む。

【主な施策】

- ・ぐんま新人演奏会の開催
- ・グリーンコンサートの開催

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(2)-1 文化活動を行う者の育成等に関する事業

84,886千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		教育文化事業団運営	県民芸術祭等を実施し、県民の文化芸術活動の支援や優れた芸術を觀賞する機会を設ける。	84,886	【再掲】

○文化団体の育成等

文化団体の育成や文化団体が行う文化活動が自主的・継続的に行われ、発展するための支援に取り組む。

【主な施策】

- ・芸術文化団体等補助事業の実施
- ・文化・芸術事業立ち上げ支援助成の実施

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(2)-2 文化団体の育成等に関する事業

30,800千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		教育・芸術文化団体助成	芸術、文化及び教育の振興を図るため、芸術家、芸術文化団体を実施する事業に対して助成を行う。	30,800	【再掲】

○文化活動を支える活動を行う者及び団体の育成等

ヒト・モノ・地域をつなぎ、県と連携して施策の推進にあたる人材の育成に取り組む。

【主な施策】

- ・文化づくりコーディネーター養成研修会を活用したネットワークづくりの実施

【目標・指標（H27）】

- 〔文化づくりコーディネーター養成研修会を活用したネットワークづくりの実施〕
- ・養成人員 40人

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(2)ー3 文化活動を支える活動を行う者及び団体の育成等に関する事業

1,518千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課	○	文化づくりコーディネーター養成事業	実践形式の研修会を開催し、文化資源、情報に関する総合的な力を備え、ヒト・モノ・地域をつなぎ、県と連携して施策の推進にあたる人材の育成を図る。	1,518	【再掲】

(3) 文化活動で顕著な成果を収めた者や文化の振興に寄与した者への顕彰

芸術文化の普及・振興に貢献した個人、団体を顕彰します。また、文学における創作活動のうち特に優れた者を選奨等します。

【主な施策】

- ・群馬県文化奨励賞、群馬県文学選奨、県展山崎種二記念特別賞による顕彰の実施

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(3) 顕彰に関する事業

52,443千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		名義後援・賞状交付	事業を行う主催に対し、後援者として「群馬県」の名称の使用を承認し、また、賞状を交付することによって、その開催を援助する。	-	【再掲】
2	生活文化部	文化振興課		芸術文化事業企画 (文化奨励賞)	文化の振興・発展において、特に顕著な功績のあった者及び団体に対し、その功績を称え、もって県民文化の向上に資している。	342	
3	生活文化部	文化振興課		県民芸術祭委託 (県文学賞選奨)	県民の積極的な文化芸術活動への支援と優れた芸術鑑賞の機会を提供し個性豊かで新しい県民文化の育成・創造を目指す文化芸術の祭典。	52,101	【再掲】

5 文化資産の保存及び活用

本県の「たから」である地域の多様で豊かな文化資産の保存・活用に取り組みます。また、地域における文化資産の価値を再認識し、地域の文化資産を活用した観光・地域振興に取り組みます。

◎ (1) 伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用

○伝統文化の継承

地域の絆により、古くから県内各地で伝えられ、守られてきた地域の伝統文化を継承していくための活動を支援する。

【主な施策】

- ・地域の伝統文化を映像に記録する事業や伝統文化の伝承者を養成する事業などを実施する伝統文化を残そうとする団体への補助
- ・伝統文化継承状況の実態の把握
- ・伝統文化継承モデル事業の実施
- ・伝統文化団体や伝承者のネットワークづくりの支援
- ・学校で地元の伝統文化に触れる機会の提供

【目標・指標（H27）】

- ・伝統文化継承事業支援件数 200件（H23～H27の累計）

（参考）平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(1)－1 伝統文化の保存等に関する事業

107,364千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課		伝統文化継承事業	地域の絆により、古くから県内各地で伝えられ、守られてきた地域の伝統文化を継承していくための活動を支援する。	11,700	
2	農政部	蚕糸園芸課		日本絹の里運営	伝統ある群馬県蚕糸絹業の歴史・技術に関する展示のほか、染織等の体験機会を提供し、県民理解を促進する。	93,859	
3	産業経済部	工業振興課		群馬県ふるさと伝統工芸品展示会	群馬県ふるさと伝統工芸品の魅力を多くの人に伝え、理解を深めてもらうため、展示・販売会を実施する。	725	
4	産業経済部	工業振興課	○	群馬県ふるさと伝統工芸品の新規指定及び群馬県ふるさと伝統工芸士の新規認定	群馬県ふるさと伝統工芸品の名声を高め、伝統的工芸品産業の振興を目的とし、工芸品の新規指定及び工芸士の新規認定を実施する。	1,080	

○文化財等及び歴史的な文書等の保存等

有形及び無形の文化財（保存技術を含む。）が適切に保存され、活用されるように、その修復、防災対策、公開などに対する支援に取り組む。

また、郷土についての歴史的価値がある文書や記録の適切な保存、継承、利活用の推進を図る。

（参考）平成24年度当初予算に係る文化振興施策

（1）-2 文化財等及び歴史的な文書等の保存等に関する事業

295,339千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	環境森林部	自然環境課		尾瀬山の鼻ビジターセンター運営	特別天然記念物である尾瀬の、山の鼻ビジターセンターの管理運営、自然解説、木道等公共施設の維持管理を行う。	10,069	
2	教育委員会	総務課(文書館)		国重文指定文書保存管理	平成22年度国重文指定「群馬県行政文書」(約1.8万点)の適切な管理と活用を促進する。	3,047	
3	教育委員会	総務課(文書館)		絵図資料のデジタル化	歴史的に貴重な絵図1,908点の恒久保存を計画的に進める。	201	
4	教育委員会	総務課(文書館)		文書調査員会議・現地調査	県内各地配置の23名の調査員が、地域所在の古文書調査や保存に関するアドバイスをを行う。	337	
5	教育委員会	文化財保護課		文化財保存活用	文化財保護審議会の運営や銃砲刀剣類の登録等文化財の保存活用に関する事業を行う。	6,474	
6	教育委員会	文化財保護課		文化財保存管理指導	文化財を良好な状態で保存し、活用にするため、国・県指定文化財の保存・整備・活用事業へ補助する。	92,067	
7	教育委員会	文化財保護課		埋蔵文化財保護対策	埋蔵文化財を保護するため、開発前に埋蔵文化財の所在や範囲を把握するための試掘調査を行うとともに、最新の遺跡・指定文化財情報を公開する文化財情報システムの整備を行う。	7,458	
8	教育委員会	文化財保護課		幹線交通・ダム文化財調査	公共開発に係る埋蔵文化財発掘調査の調整を行う。	4,686	
9	教育委員会	文化財保護課		埋蔵文化財調査センター運営	埋蔵文化財の発掘調査に伴う出土品を保存管理するとともに、その成果を広く県民に利用してもらう環境を整える。	41,000	
10	教育委員会	文化財保護課	○ 一部	「偲ぶ毛の国」群馬の魅力発掘・発信	古墳総合調査や上野国分寺跡整備等、群馬県が持っている歴史文化遺産の価値を再認識し、県内外に情報発信することで、文化財の保存・整備・活用とともに群馬県のイメージアップを図る。	130,000	

○世界遺産等への登録等

普遍的な価値に係る更なる調査研究などを行い世界遺産登録に向け関係機関への働きかけを行う。
また、世界遺産登録後は、人類全体の財産として適切に保存し、広く活用することにより群馬の文化の発展を目指す。

【主な施策】

- ・ユネスコに提出する推薦書の作成
- ・富岡製糸場や各資産の資料収集や調査・研究の実施
- ・まちづくりの研究
- ・構成資産の国文化財指定に向けた関係機関との調整
- ・普及広報活動の実施
- ・富岡製糸場の周辺整備事業の実施

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(1)-3 世界遺産等への登録等に関する事業

182,000千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	企画部	世界遺産推進課		世界遺産登録推進	富岡製糸場と絹産業遺産群を保全・継承するため、ユネスコ世界遺産に登録するとともに、それらを活用した地域づくりを推進する。	82,000	
2	県土整備部	道路整備課		社会資本総合整備事業	富岡製糸場の世界遺産登録に向けた渋滞解消のための周辺整備(国道254号 甘楽吉井バイパス工事)	100,000	

- ◎ (2) 地域の文化資産（伝統文化、文化財、食文化、景観など）を活かしたまちづくりや観光・地域振興
 地域における文化資産の価値を再認識し、地域の文化資産を活用した観光の振興などの地域振興に取り組む。

また、公共の建物等を建築する場合は、周囲の自然的環境、地域の歴史及び文化などと調和を保つように努める。

【主な施策】

- ・ 歴史文化遺産の周知事業の実施

(参考) 平成24年度当初予算に係る文化振興施策

(2) 文化資産の活用に関する事業

55,908千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	生活文化部	文化振興課	○	東国文化周知事業	古代の東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳天国である本県が誇る歴史文化遺産について、調査研究を進め、再認識を促すとともに、観光やイメージアップ等における活用を図る。	7,000	【再掲】
2	議会事務局	調査広報課	○	議会庁舎展示ホールリニューアル	県議会の歴史や役割等を県民に紹介するための展示ホールを、議会庁舎2階県民サロンの一部を活用してリニューアル整備	7,000	
3	教育委員会	総務課(文書館)		文書目録検索システム	資料のデジタル化公開など新たな機能を付加し、県民の記録資料へのアクセス権を保障する。	1,662	
4	教育委員会	総務課(文書館)		マイクロプリントビューアー	マイクロ・デジタル資料利用者の便宜を図る。	274	
5	教育委員会	総務課(文書館)		古文書講座	一般県民の古文書理解を深めることにより、地域にある古文書の保存と利用を推進する。	155	
6	教育委員会	生涯学習課		視聴覚センター管理運営	視聴覚貸出教材の充実を図るとともに、センターでの視聴、学校や社会教育団体等への貸出を行う。	3,008	
7	教育委員会	生涯学習課		図書館運営	子どもの読書活動の向上を図るための資料を収集し、県民に公開する。	6,003	
8	教育委員会	生涯学習課		地域協力	図書館未設置町村や学校図書館を支援するための資料を収集し、配送する。	3,135	
9	教育委員会	生涯学習課		資料情報サービス	県立図書館に郷土資料等の様々な資料を収集し、県民に公開する。	27,671	

6 情報の発信及び文化交流の促進

県民の文化活動をより活発にするため文化に関する情報の収集・発信に取り組みます。また、本県が全国に誇る文化資産を県内外に向けて発信します。

◎ (1) 文化に関する情報の収集や発信 文化に関する情報の収集・発信に取り組む。

(2) 文化を通じた地域間交流や国際交流の推進 文化を通じた地域間交流や国際交流の推進に努める。

(参考)平成24年度当初予算に係る文化振興施策

6 情報発信及び文化交流の促進に関する事業

141,191千円

番号	部局名	課名	新規	事業名	事業内容	H24年度予算(千円)	備考
1	企画部	企画課		群馬県PRサイト運営	群馬の魅力発信サイトの運営	1,435	
2	企画部	企画課	一部	「群馬の魅力みんなでPR」事業	群馬の魅力を紹介するパンフレットの作成、県民講座の開催、「群馬の魅力」発信委員会の運営	4,083	
3	生活文化部	文化振興課	○	東国文化周知事業	古代の東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳天国である本県が誇る歴史文化遺産について、調査研究を進め、再認識を促すとともに、観光やイメージアップ等における活用を図る。	7,000	【再掲】
4	教育委員会	高校教育課		伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル研究	高校生が、伝統や文化にふれる機会を充実することにより、関心や理解を深める。	600	
5	教育委員会	高校教育課		高校生いきいき文化活動推進	・高校教育での芸術文化活動の総合的なイベントである群馬県高等学校総合文化祭を開催する。 ・高校教育の充実と青少年文化活動の振興を図るため、県高等学校文化連盟へ高校芸術祭の事業を委託する。 ・全国高等学校総合文化祭への生徒派遣及び作品参加に係る補助金を、県高等学校文化連盟へ交付する。	3,591	
6	教育委員会	文化財保護課	○ 一部	「偲ぶ毛の国」群馬の魅力発掘・発信(再掲)	古墳総合調査や上野国分寺跡整備等、群馬県が持っている歴史文化遺産の価値を再認識し、県内外に情報発信することで、文化財の保存・整備・活用とともに群馬県のイメージアップを図る。	130,000	【再掲】